

科目名	環境保健学 Environmental and Occupational Health	科目区分	共通	単位数	2単位
教員名	柴田英治, 土山ふみ	必修・選択	選択	開講年次	第1学年
				開講学期	後学期
科目概要	地球環境問題が文明社会におけるエネルギー問題・経済成長と直結していることは、過去の公害問題、労災問題、震災に伴う原発事故、マイクロプラスチックによる新たな環境汚染などをみれば明らかであろう。働く人々をめぐる環境についても過重労働に伴う自殺事案、石綿、有機溶剤など産業現場で用いられる素材、化学物質による健康被害、さらに政府が進める働き方改革が働く人々の健康に及ぼす影響も注視しなければならない。看護学の立場からこれらをどう考えるのか、何をすべきかを考える。				
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 地球環境、社会環境、職場の環境の現状と課題を説明できる。 2 環境保健・産業保健の課題に対応するため、看護分野の専門家として生かせる知識、技術、連携すべき分野などについて説明できる。 3 グローバルな環境問題から身近な看護労働に関わる問題に至るまで、幅広い視野で健康問題を考え、よりよい暮らし方、働き方について考えを述べるができる。 				
内 容	1	環境問題の歴史	足尾銅山鉛毒問題, ロンドン事件	土山ふみ	
	2	水環境	水質汚濁に係る環境基準, 身近な水環境	土山ふみ	
	3	産業看護の現状と課題	小規模事業場, 地域・職域連携	柴田英治	
	4	過重労働の原因と事業者, 産業保健スタッフの対応	電通事件, 過重労働, 過労自殺	柴田英治	
	5	水系感染症	クリプトスポリジウム, 腸管出血性大腸菌	土山ふみ	
	6	大気環境と健康	光化学オキシダント, 窒素酸化物, PM2.5	土山ふみ	
	7	有害化学物質取扱職場における健康問題	胆管がん問題, 有機溶剤中毒, 労働安全衛生法	柴田英治	
	8	化学物質による健康障害リスクへの対応	リスクアセスメント, 量反応関係, 発がん性, 最小無毒性量	柴田英治	
	9	地球環境問題の概要	温暖化, オゾン層破壊	土山ふみ	
	10	放射線と健康問題	福島第一原発事故, 電離放射線	土山ふみ	
	11	職場における腰痛対策	介護労働, 作業姿勢, 災害性・慢性・急性腰痛	柴田英治	
	12	室内環境, シックハウス症候群への対策	揮発性有機化合物, 温湿度, 室内換気, 家庭内の事故	柴田英治	
	13	これからの環境問題の課題	ごみ問題, 生物多様性, エネルギー問題	土山ふみ	
	14	石綿問題の教訓と今後の課題	悪性中皮腫, 建設作業, 生涯リスク	柴田英治	
	15	まとめ	看護学と環境衛生, 労働衛生	柴田英治	
学修方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 1コマあたり, 90分以上の事前・事後の学修が必要となる。 2 環境に関わる健康障害, 働く人々の健康をめぐる問題などについて, 自分自身の経験やこれまでに対応した事例, 症例を振り返り, それらの背景を考える。 3 授業では概論的な講義を行った上で, 上記について学生に問いかけるところからディスカッションを進める。 4 各授業では講義と学生への質問, ディスカッションを進める中で社会の人々が健康に働き, 生活するために何が必要かについて自身の考えを述べられることを目標とする。 				
評価方法	授業中の態度, 質問, 意見表明などの積極性(20%), レポート(80%)とする。				
教科書・参考書	テキスト: 適宜プリントを配布する。 参考書: 適宜紹介する。				
履修上の注意点	少人数による講義形式の授業であり, 教員と学生のコミュニケーションを重視する。積極的に学ぶ姿勢を期待している。				
オフィスアワー	※ 兼担・非常勤講師については別紙にて配布する。				